



令和元年度

卒業証書・学位記授与式

式次第

- 一 学位記授与
- 一 学長表彰授与
- 一 その他表彰

以上

令和2年3月13日

四天王寺大学
四天王寺大学大学院



■式辞 学長

令和元年度学位記授与を学部・学科・コース別に挙げるに当たり、新型コロナウイルス感染症により同席が叶わなかった学校法人四天王寺学園理事長瀧藤尊淳先生をはじめ役員各位、ならびにご来賓、保護者の皆様のお祝いの気持ちを心に感じつつ、本学教職員と共に、卒業生の皆さんの門出をお祝いできることは、心よりの慶びであります。

本日は、大学院博士前期課程3名、人文社会学部367名、教育学部259名、経営学部144名、短期大学部218名、あわせて991名を本学から送り出すこととなります。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。本学の教職員一同、心からみなさんのご卒業をお祝いいたします。

令和元年3月13日現在で大学の卒業生は24,238名、短期大学部の卒業生は30,258名となりました。皆様がこれからの四天王寺大学・短期大学部の新たな歴史を作ることになるでしょう。

みなさんが本学で過ごされた期間を振り返り、どのようなものであったか思い出してください。在学期間中には多くの出来事がありました。

皆さんが入学された2016年は、4月に熊本地震、5月にオバマ米国大統領が広島訪問、6月に英国のEU離脱決定、イチロー選手が日米通算4,257安打、8月にリオデジャネイロ・オリンピック、10月に大隅良典先生がノーベル医学生理学賞受賞、11月にトランプ米国大統領選挙勝利などがありました。その後、ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍は記憶に新しいと思います。また、天皇の退位と新天皇の即位により元号が平成から令和に変わりました。

このように在学中には色々な出来事がありましたが、一番大事なことは、よき友達、よき先生と出会えたことではないでしょうか。本学で学び、じっくりと物事を考え、自分を見直す時間をもち得たと思います。また、クラブ活動などで心身を鍛え、アルバイトなどで社会の厳しさを垣間見るようなことがあったでしょう。一人ひとりのみなさんが「有意義な大学生活」「実りある青春時代」と振り返ることができる日々であったことを願っています。

卒業を迎える当たり、心ならずも学位授与式を中止せざるを得なくなり、関係者一同と共に皆様の門出を祝うことが出来なくなったことは大変残念に思います。皆さんは、これからも、我が国の少子化・超高齢化社会、日本経済の停滞、地球規模の気候変動、国際社会の混乱など多くの課題に直面することと思います。人類が経験したことのないこのような色々な変化の中で、皆さんは、これから実社会に出て自分の力で将来を切り開いていかなければなりません。強い精神力を持ち、健康に気を配り、さらに日常生活の管理を自身でしていく必要があります。仕事では、新人である皆さんが、先輩とそんな色なく仕事ができるようになって、直ぐには評価して頂けないかもしれませんが、信頼を得、安心感を与えられるように、もう少し粘ってみてください。

「石の上にも3年」と言う諺があります。

3日 続けることができたなら、1週間は続けられる。

1週間は続けることができたなら、3週間続けることができる。

3週間続けることができたなら、3ヶ月続けることができる。

という風にして半年、1年と続けることができる。

1年続けることができたなら、人間関係も含めて一通り仕事を理解できてくるでしょう。こうなればしめたもので、3年経てば 職場で無くてはならない、仕事ができる人材になっていると思います。何事も「石の上にも3年」を忘れないで頑張ってください。人間社会で生きていく基本は変わらないと思います。各自が本学で培った建学の精神に根差した「人間力」を力いっぱい発揮して頂くことができれば、道は開け希望はかなえられると思います。

最後に、もう一つ思い出していただきたい重要なことがあります。学園訓の重要性と重みを卒業してから実感しているとの話を卒業生からお聞きします。学園訓を今一度読み上げます。

一、和を以って貴しとなす

一、四恩に報いよ 四恩とは国の恩、父母の恩、世間の恩、仏の恩なり

一、誠実を旨とせよ

一、礼儀を正しくせよ

一、健康を重んぜよ

皆様も社会人となり、いずれは親となることと思いますが、折々に思い出して頂ければと思います。

みなさんの今後のご健康とご健闘を願い、学長式辞といたします。

令和2年3月13日
四天王寺大学
四天王寺大学大学院
学長 岩尾 洋

■祝辞 理事長

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ならびに、大学院修了者の皆さん、修了おめでとうございます。

皆さんは、それぞれの課程を無事に修了され、今、ここに、めでたく卒業の榮譽を得られました。皆さんはもちろんのこと、ご家族の方々のお慶びもひとしおのことと、心からお祝い申し上げ、同時に四天王寺大学に対しまして、これまでご協力とご理解を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

本来であれば皆さんの門出を盛大にお祝いしなければならないところではありますが、今年度は新型コロナウイルスによる感染症の拡大により、規模を縮小しての学位授与式となりました。皆様のお気持ちを拝察いたしますと断腸の思いでございますが、皆様の安全の確保を最優先に考え、苦渋の決断をいたしました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

さて、皆さんは本学に在学中、学園建学の祖 聖徳太子のみ教えを学び、建学の精神である「帰依渴仰・断悪修善・速證無上・大菩提處」をよく体し、礼拝・瞑想・写経という修行の一つひとつを実践体得してこられました。その努力に対し、心から敬意を表します。

今年度は平成というひとつの時代が終わり、令和という新しい時代が到来いたしました。皆さんは、この令和初の卒業生として、明日から輝かしい社会人としての一步を踏み出されるわけです。

ところが、近年は将来の予測が大変難しい、複雑で変化の激しい時代となっています。不安定な世界情勢や経済情勢などは私たちの日常生活にも大きな影響を与えており、これによって、各業種の仕事の在り様も、年々変わりつつあります。

まさに激変の時代ですが、建学の祖である聖徳太子の時代、千四百年前も、国内外の状況は非常に厳しく激動の時代でした。豪族が権力争いを繰り返し、大国 隋をはじめとする近隣諸国の脅威にさらされる中で太子は、仏教を基本に据え、柔軟な考え方で国家をまとめ対等外交の基盤をつくられたのです。そして、人々の暮らしがよくなるようにと敬田院・悲田院・施薬院・療病院の四箇院をつくるとともに、「和」を貴ぶ十七条憲法を制定されたのです。

皆さんは、本学にて、その太子のご精神を十分に学び、受け継がれました。一言で表すならば「慈悲共生」の精神です。これは、他人(ひと)の悲しみや苦しみ、喜びを相手の立場になって感じることです。自分を大切にし、自分と同じ、もしくはそれ以上に他人を思いやることができる心豊かな人間として、他と和し、共に生きていくための基礎を養っていただけたものと思います。

これからの社会は、感性や対話力といった人間ならではの能力が益々重要になってまいります。先ほども述べましたとおり、今年度は元号が令和になりました。この令和という元号には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化

が生まれ育つ」という意味が込められております。まさしく往古より日本人が大切にしてきた「和の心」と言えるのではないのでしょうか。

誠意や思いやりがわからぬ人間はおりません。慢心し、驕り高ぶれば親しい間柄であろうと人の心は離れていってしまいます。しかし、お互いが誠意と礼儀を尽くし、心を寄せ合えば、必ずや立場や国境を越えて分かり合える時が来るでしょう。

本学で身につけられた「和の心」は間違いなく皆さんの人生の糧となると確信しております。この先、皆さんがどのような進路に進もうと、社会が抱えている困難で複雑な課題は何処にでもあり、後悔や、時には挫折を味わうこともあるかもしれません。しかし、皆さんならばその困難を乗り越えられると信じております。

皆さん、自信を持って、それぞれの進むべき目標に向かい、失敗を恐れず、果敢に挑戦してください。そして、それぞれの分野で、世の中に尽くしていただくとともに、一人ひとりが「和の心」を未来に継承していただきたいと切に願うところです。

皆さんの前途に幸多からんことを心よりお祈りいたしまして、簡単ではありますが、お祝いの言葉といたします。

令和2年3月13日
学校法人四天王寺学園
理事長 瀧藤 尊淳

■祝辞 同窓会会長

令和元年度卒業証書・学位記授与式にあたり、「四天王寺大学同窓会」を代表致しまして一言御挨拶申し上げます。

四天王寺大学大学院の皆さん、四天王寺大学の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、本日まで立派にご子息・ご息女を育ててこられた保護者の皆様にも、心より御祝を申し上げます。

「四天王寺大学同窓会」は、旧女子短大・女子大時代より五十年以上にわたり受け継がれ、卒業生相互の親睦はもとより、在学生の皆さんとの交流を図り、母校の発展に寄与する事業を行っております。卒業生の皆様方には、入学時、協力金にご支援いただき誠に有難うございました。そのあたたかいご支援をもとに、皆さんに豊かな学生生活を送っていただくために、「同窓会奨学金制度」、「同窓会会長表彰」並びに「課外活動費の助成」などを実施して参りました。

これから皆さんは大学を離れ、社会へ出られますが、在学中に体得された仏教精神を支えに、本学の同窓生として、様々な分野でご活躍されますことを願っております。

最後になりましたが、学園訓のひとつでもある「和を以って貴しとなす」を忘れずにそれぞれの夢に向かって大いに羽ばたいてください。また、これからのご活躍に心からの期待をこめて、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

令和2年3月13日
四天王寺大学同窓会
会長 森田 貴夫

■ 卒業生を送ることば

冬の厳しい寒さも和らぎ、うららかな春の香りを感じるようになりました。大学までの道を飾る桜並木にも春の息吹が感じられ、皆様のご卒業を祝福しているかのようにつぼみをつけ始めていることでしょう。

きらめくような春の日差しの中、晴れて四天王寺大学を卒業される先輩方、ご卒業おめでとうございます。

先輩方はここ四天王寺大学で日々の学習をはじめ、クラブやサークルでの活動やボランティア活動など、様々な場面において積極性を発揮されており、私たちはその立派な姿に憧れ、励まされてきました。そうした先輩方のご卒業を非常にさみしく、心細く感じつつも、晴れ姿を拝見することを楽しみにしておりました。それは叶いませんでしたが、こうした形でもお祝いの気持ちをお伝えする機会を頂けたことを光栄に思います。

今、先輩方の心の中では、四年間の学生生活の思い出が去来しているのではないのでしょうか。満開の桜の中、四天王寺大学の門をくぐられてから今日に至るまで、様々な経験をされたことと思います。それらは先輩方にとって大きな誇りとなり、これからの人生において大きな心の支えとなってくれることでしょう。先輩方のご活躍の一つ一つは私たち後輩の心にも刻まれ、私たちに夢と希望を与えてくださいました。先輩方から教わったたくさんを私たちが後輩へと語り継いでゆきます。

さて、今年度も様々な出来事がありました。中でも印象に残っているのは日本で開催されたラグビーワールドカップで日本チームが初のベストエイト進出を果たしたことです。開催国としても注目され、強豪国であるアイルランドと同じ予選プールという中で、全勝を成し遂げ、プール内トップで予選通過という快挙を成し遂げました。様々な国から集まった選手が、日本代表の名のもと、たゆまぬ努力を重ね、日本人の心に響く素晴らしいプレーを見せてくれました。ジェイミー・ジョセフヘッドコーチが、メンバーの入れ替わりがあってもなお一体感のある組織を目指すスローガンとして発表した「ワンチーム」という言葉は、新語・流行語大賞の年間大賞にも選ばれました。

今、日本は未曾有の事態にあります。今年の東京オリンピック開催、二〇二五年には大阪万博も控え、海外から多くの注目を浴びています。このような世界的激動の中にある今日、先輩方は四天王寺大学を旅立たれ、未来に向かってそれぞれの道を歩まれていくことになります。先輩方の四天王寺大学での様々な出会いや活動、学びの経験は、グローバル化し多様性に富んだ社会の中でワンチームとなる力、輝かしい未来へ前進する力となるでしょう。高い志を持って社会で活躍されることを願っております。

最後となりますが、大学生活の中で尊敬できる多くの先輩方に出会い、時間を共にできましたことを誇りに思っております。これからは私たちが先輩方から受け取ったバトンの後輩たちに渡していきます。先輩方の今後の更なるご活躍とご多幸をお祈り申し上げ、送る言葉とさせていただきます。

本日はご卒業おめでとうございます。

令和2年3月13日
四天王寺大学
在学生代表

■お別れのことば

春光天地に満ちてよい季節となりました。今日、私たちは無事に卒業の時を迎えられることを大変うれしく存じます。本日は私たち卒業生のために素晴らしい式典を用意していただき誠にありがとうございます。

さて、寒さ残る今日の空を皆様は如何様な心持ちでご覧になっていらっしゃるのでしょうか。私は四年前の入学式での雨空を、不慣れだったスーツを、そして期待と不安がないまぜになった気持ちを思い出しております。当時の私は18歳にして自身の在り様に行き詰まりを感じておりました。今ならばわかるのですが、18歳の私は周りに流されるまま生きてきたことに焦りを感じていたのです。そこで、その時精いっぱいできることとして、見知らぬ土地で、一人で生活をする事で答えを見出せはしないかと考え、四天王寺大学に入学したのです。

四年たった今、あの時の私が望んだようになっていいのか定かではありません。けれども、22歳の私が18歳の私に何か言えることがあるとしたら、人として得るものも手放すものも多かったが人間を22年やってきて漸く自分で選択をし、責任を負うことの意味を実感した、と伝えたいです。

私は教職を選択しました。そのおかげで、実習やボランティアを体験することができ、学内外問わず多くの人との出会いに恵まれました。いつ担任をもつのか、と楽しみにしてくれていた生徒たち。同僚になりたいと言ってくれた他大学の学生。よりよくなるようにとご指導をいただいた先生方。たくさんの方の事を学び、人としての豊かさを教えてくださった人生の先輩や、後輩たち。その光景は今でも昨日のこのように思い出せ、私を支えてくれています。

しかし、結局、教員の道を選びませんでした。その結果、周囲の人々に、そして家族にどれだけ深い失望を与えてしまったのかは計り知れません。進路に悩み、真っ先に兄に相談した時を、教員を語るとき目がキラキラしてないと恩師にいわれた時を、教員になる勉強をしながら就職活動をする母に告げた時を、教員採用試験を受けることすら思い悩み、試験当日朝四時に父に電話をかけた時を、一生忘れることは出来ないでしょう。

それでも大学で学ぶことを受け入れ、私が、私を生きる選択を後押ししてくれた家族の存在に、どれほど自分が恵まれているのか気づくことができました。家族への心からの感謝を胸にこれまで支えてもらっていた分以上に恩返しをしていきたいです。ともに卒業する皆も、それぞれが感謝の気持ちを抱いて、ここに集っていることでしょう。

また、学内外の先生方にも添削や面接で大変お世話になりました。私の教員になりたいという願いを後押しし、支援して下さったことに報いることができず心苦しくあります。しかし、これまでの教えをこれからの道で生かしていくことのできるよう学び続けたく思います。

また、大切な親友もできました。その親友は道を選びあぐねている私の相談を聞き、時には諭してくれました。彼らとともに学ぶことができたことは私にとってとてつもない僥倖でした。授業のために必死になって助け合って勉強をし、他愛もないことでも自分事のように喜怒哀楽を分かち合い、下宿

生活は彼らで彩られており、寂しさを感じる間もなく過ごしました。

卒業する今、毎日大切な仲間に出会っていた日々は今日で終わりを告げ、それぞれの道を歩み始めます。道は違えど、四天王寺大学とともに培ってきたことを大切に生きてくれることを願います。

最後になりますが、四年間お世話になりました先生方、ご来賓の方々ならびに学校関係者の皆様、私たちを先輩として慕ってくれた在校生の皆さん、いつも優しく接して下さった職員の方々、本当にありがとうございました。

卒業生を代表して、四年間の御厚情を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。皆様のますますの御健勝とご多幸を心よりお祈りし、四天王寺大学の益々の発展を願いましてお別れの言葉とさせていただきます。

令和2年3月13日
四天王寺大学
卒業生代表